

慶愛病院 計画的無痛分娩について

無痛分娩とは 麻酔を使用する分娩方法です。「痛みがなくなる」ことはありません。
陣痛による痛みを緩和（鎮痛）しながら分娩に至ることの総称です。

【メリット】

陣痛をコントロールすることで、精神的ストレスを避け、母体循環動態の急激な変動を起こしにくくします。上手く管理出来ればほとんど痛みを感じない事もあります。

（しかし、結果として陣痛が強い場合や麻酔の効きが悪い場合は痛みを緩和出来ない事もあります。）
手術時の麻酔と違い母体やお腹の中の赤ちゃんへの影響を最小限にするため、麻酔量は少ないため「陣痛緩和」と言う表現、弱い鎮痛で分娩を乗り切ろうとする特徴があります。

無痛分娩の麻酔法としては硬膜外麻酔が一般的です。

硬膜外麻酔とは背骨の隙間から針を挿入し 硬膜外腔に直径1mm以下の細いカテーテル挿入し留置します。このカテーテルから間欠的に麻酔薬を入れて痛みを緩和します。

ただし、当院では麻酔科医師がいない為、産婦人科医師が硬膜外カテーテルを挿入致します。そのため計画的な無痛分娩が必要です。陣痛誘発剤にて陣痛を起こしていきます。

【硬膜外麻酔注意点】麻酔効果が不十分の場合は再度カテーテルを入れ替える事もあります。個人の体質によっては薬が効きづらいこともあります。

万一、効かない場合でも薬や処置していますので費用の変更はありません。

【硬膜外麻酔の禁忌】

- ①出血傾向 凝固系異常のある方 ②感染症の可能性のある方
- ③脊椎に側彎症などの変形や脊椎の手術の既往のある方
- ④麻酔の薬物にアレルギーのある方 ⑤院内スタッフの指示に従えない方

【デメリット】

①麻酔のよくある副作用 血圧低下 頭痛めまい 皮膚の痒み 膀胱麻痺 一過性胎児心拍徐脈

②分娩に対して 微弱陣痛により陣痛促進剤使用の必要性 分娩経過時間延長
回旋異常による吸引分娩や鉗子分娩の必要性 産後の弛緩出血

③麻酔の重篤な副作用 薬剤によるアナフィラキシーショック 局所麻酔薬中毒
カテーテル挿入による硬膜外血腫や感染 神経障害
全脊椎麻酔による呼吸停止 心停止

（当院で管理出来ない場合重篤な副作用が発生した場合は無痛分娩は中止し母体搬送致します。）

【計画無痛分娩の入院後の経過】

①前日入院 午後2時頃産婦人科外来へ 入院し病室へご案内

②誘発当日 朝にLDRに移動します（点滴確保 抗生剤点滴 血液検査）

③モニター装着 母体モニター管理（血圧 心電図 パルスオキシメーター）
胎児モニター管理（分娩管理装置 胎児心拍モニター）

④硬膜外麻酔 背中の腰部から硬膜外カテーテル挿入 尿管カテーテル挿入

⑤分娩誘発方法 （メトロイリントル挿入オキシトシン点滴、プロウペス腔内挿入等）

⑥陣痛がついて来たら、カテーテルから麻酔薬を使用開始（麻酔使用中は絶食になります）

⑦陣痛が弱い時は 人工的に破膜する事があります

⑧お産後3時間はLDRにてモニター管理します。子宮収縮や出血など確認し自室に帰室します。

入院時に①「無痛分娩」同意書 ②「分娩誘発」同意書 ③入院証 等の書類を持参ください。